

「飛び立つ春の望みもて

四十一年の誇りを胸に」

本校は令和3年3月末をもって、41年の歴史に幕を下ろし、閉校いたします。昨年11月7日には、多くの来賓、旧職員及び同窓生出席のもと「閉校式」を開催することが出来ました。これまで本校のために御尽力いただいた平内町民をはじめとする多くの方々に感謝申し上げます。

昭和23年に県立青森工業高校および青森市立女子高校の小湊分校として、定時制の課程が設置されたのが本校の前身になります。途中、所属換えや名称変更がありました。途中、「平内町に県立高校を作ろう」という強い町の要望により、昭和55年に県立青森東高校平内分校設置、昭和58年には県立平内高校へ独立昇格という形で、この平内町に全日制の課程としてスタートしました。この全日制の課程の設置から41年の歴史が始まりました。開校当時は、旧小湊中学校の古い木造平屋の校舎とプレハブ教室、そして体育館（現第2体育館）からのスタートで、生徒会・運動部の設置、開校記念植樹、畑やテニスコートづくりなど、生徒と教職員、保護者がともに行った一からの学校づくりでした。畑作りの他に「しいたけの植菌」も行われていましたが、これは現在まで続けられ、最後の卒業生である現在の3年生も入学してすぐに経験しています。

開校から部活動も活発に行われてきました。昭和60年には写真部が、昭和63年には放送部が県高校文化祭で最優秀賞を授賞しています。また、平成3年には柔道部が県高総体で団体2位、同年の東北総体で個人優勝しています。多くの部活動の活躍の中でも、平成11年、14年には野球部が夏の甲子園予選で準決勝に勝ち上がり、「部員数わずかな小さな郡部の高校が、全国高校球児の憧れ、甲子園の夢舞台に立てるのではないか」と多くの町民に希望と感動を与えています。

平内高校の校訓の中に、『「おもいやり」の心を持ち』という言葉があります。本校は開

校から「ボランティア実践協力校」や「奉仕等体験学習研究推進校」に指定されるなど、ボランティア活動にも力を入れてきました。町内の清掃活動、施設を訪問しての活動、また高齢者家庭を訪問しての雪かきボランティアなど、教育活動の柱の一つとしてボランティア活動を行ってきました。現在は、生徒数減少に伴い当時と同様な活動とはいきませんが、年2回の町内清掃活動をはじめとして、施設の運動会や文化祭などに参加して運営の手伝いをするなどの活動を行い、当時の精神を今に受け継いでいます。

最後の卒業生は7名です。少人数ということ、今年度の学校行事が今までどおりとはいきませんでした。その中でも生徒たちは、工夫しながら行事を企画し実施してきました。運動会では生徒VS教職員・保護者の対抗戦とし、全員で準備から後片付けまでしながら運営しました。また、文化祭は校内での開催は難しいため、町の文化祭に参加し、展示やステージ発表をする一方、模擬店でやきとりやフライドポテトを販売し、町民に平内校舎の活動をアピールすることができたと思います。当然のことですが、保護者も7家庭しかありません。それでも、子どもたちの活動に協力して頂いたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、閉校を前にして、校地内に「閉校記念碑」の設置を行いました。いつまでも平内高校、平内校舎の思い出が同窓生および町民の皆様の記憶に留まればと思っています。最後に、今まで本校の活躍に御支援、御指導いただいた方々に深く感謝申し上げます。

(教頭 濱田茂男)